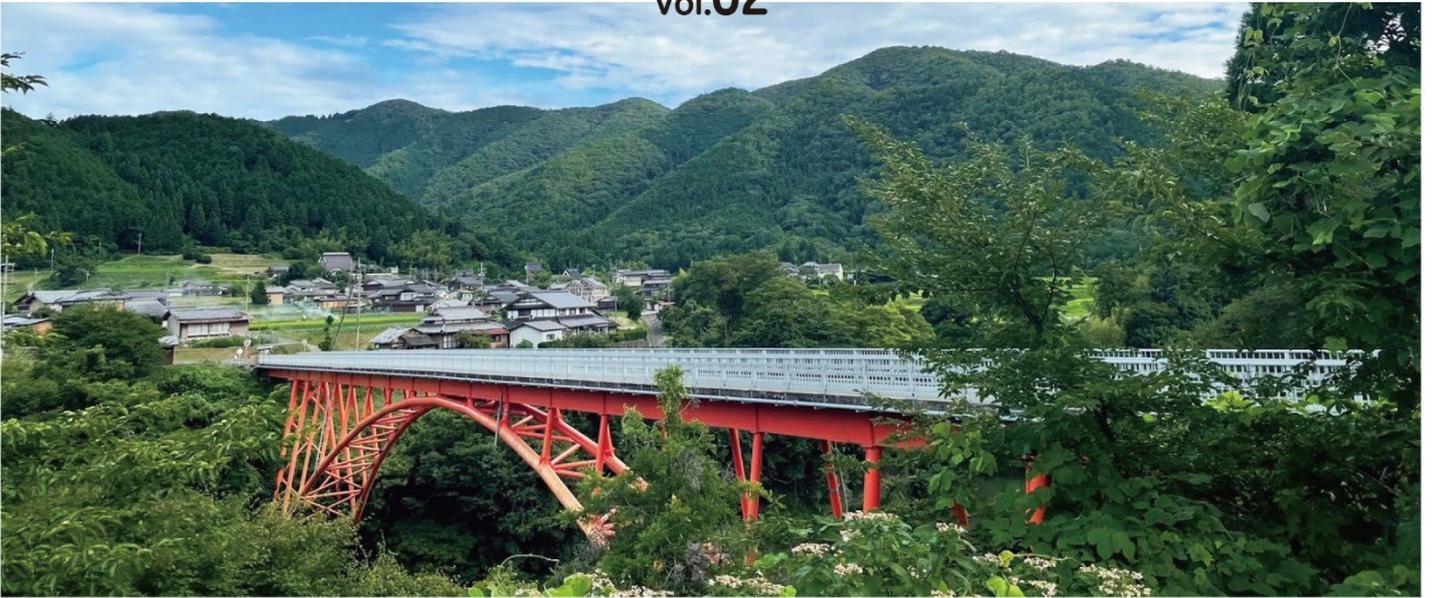


# 森の京都 移住・定住マガジン



Vol.02



## 目次

### # 1 都会と田舎の良さを活かした亀岡市の子育て

～地域と自然が織りなすのびのび育つ環境と豊富な選択肢～ 宮前裕太さん・利江子さん p2

### # 2 南丹市の自然豊かなライフスタイル

～子育てに安心感を、心と暮らしにゆとりを～ 古川貴志さん・葉音さん p5

### # 3 南丹市での子どもの生きる力を育む暮らし

～農と自然の中で、子どもと向き合う時間を大切に～ 藤村伸二さん・荒瀬千秋さん p8

### # 4 亀岡市の手厚い子育て環境

～地域との絆と自然の恵みで育む、子どもの自律心～ 井上貴美子さん・岡田康孝さん p12

### # 5 「地域で見守る」京丹波町竹野地区の子育て

～地域全体でサポートする子育て環境～ 川中一樹さん・愛映さん p16

### # 6 伝統芸能が盛んな京丹波町和知地区での子育て

～伝統芸能を通じて育む子どもの未来～ 的場凜さん p20

京都府南丹広域振興局

制作：一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）

# 1



## 都会と田舎の良さを活かした亀岡市の子育て ～地域と自然が織りなすのびのび育つ環境と豊富な選択肢～

2019年3月に滋賀県大津市から亀岡市に移住された宮前裕太さん・利江子さん御夫妻にお話を伺いました。自然豊かな環境と地域の温かいサポートが、どのように子どもたちの成長を支えているのか、また、亀岡市ならではの教育環境と選択肢が家族生活にどのように影響しているのかをご紹介します。

-profile- 宮前裕太さん・利江子さん  
2019年3月に大津市から亀岡市へ移住。夫の裕太さんは地元でイチゴ農家を営み、妻の利江子さんは京都市内での時短勤務をしながら、3人の子どもの子育て中。亀岡市の自然豊かな環境と地域の温かいつながりを活かし、充実した日々を過ごしている。

### －亀岡市に移住されたきっかけは？

利江子さん：主人がイチゴ農家として独立したことが大きなきっかけです。移住前は滋賀県でイチゴ栽培の研修を受けていましたが、主人が京都でイチゴを栽培したいという強い希望を持っていました。そのため、京都府内で農地を探していたところ、亀岡市が候補にあがりました。

### －イチゴ農家を始めるうえでなぜ亀岡市を選ばれたのですか？

利江子さん：亀岡市を選んだ理由は大きく3つあります。まず1つ目は、亀岡市の移住支援担当の方々がとても親身にサポートしてくださり、イチゴ栽培を始めるための農地をスムーズに見つけることができましたこと。2つ目は、亀岡市の『空き家バンク制度』を利用して、夫婦ともに魅力的だと感じた古民家を見つけられ

たことです。そして3つ目は、私が京都市内の会社に勤めている中で利便性が良く、働きながら子育てができる環境だと感じたからです。



ー移住前と比べて生活環境などはいかがですか？

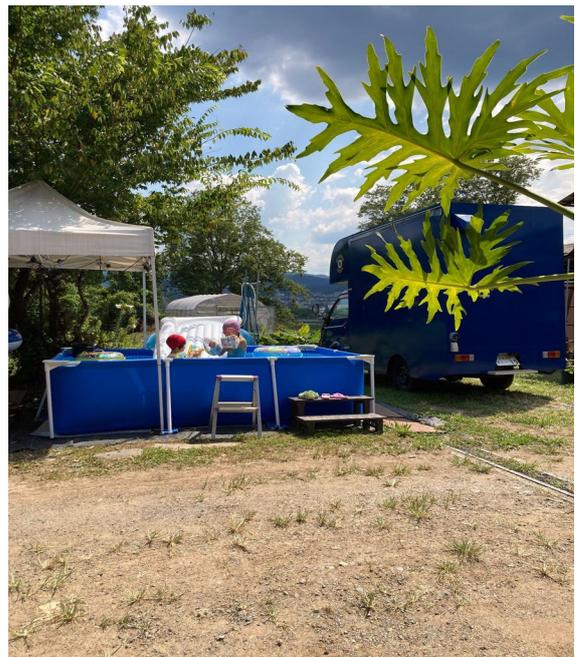
利江子さん：移住前と比べると、生活環境はとても快適です。周囲に自然が豊かで、子どもたちがのびのびと遊び、体を動かせるのが大きな魅力です。また、自宅の庭も広くて、そこで野菜を育てたり、BBQを楽しんだり、子どもがボールで遊んだりしています。こうした環境のおかげで、非常に暮らしやすいと感じています。

ー地域の方々との関係性などはいかがですか？

利江子さん：子どもがいることもあって、地域の方々にはとても助けられています。例えば、子どもの見守りをしていただいたり、何かとサポートしてもらったりしています。また、人と人との距離が近く、通りすがりに自然に挨拶を交わす文化が根付いています。このような環境で、子どもたちが小さい頃から多くの大人と関わることができるのは、とても良い経験だと感じています。

ー逆に移住をされてみて不便に感じたことや困ったことなどはありましたか？

利江子さん：冬に霧が多くて洗濯物が乾かないことには非常に苦労しました。亀岡が霧の多い地域であることは移住前に知っていたのですが、実際に洗濯物に影響が出るとは思っていませんでした。亀岡への移住を検討している方には、ぜひ冬の時期にも実際に足を運んで、日常生活に支障がないか確認することをおすすめします。



ー移住前に事前に調べておきたかったことなどはありますか？

利江子さん：移住前に長期的な視点で子育てのイメージを持つことが重要だと思います。具体的には、保育園や小学校だけでなく、中学や高校がどこになるのか、また少人数制の学校への通学が問題ないかなど、教育環境の違いについても事前に調べておくといいのではないかと思います。都市部とは異なる点が多いため、しっかりと情報を集めることをおすすめします。

### －子育てするうえでの環境はいかがですか？

利江子さん：子どもたちにはのびのびと育てほしいと思っているので、亀岡の環境は非常に良いと感じています。また、少人数制のクラスのおかげで親同士の距離が近く、移住者同士の交流も盛んでつながりができやすいです。そのため、子育てに関して夫婦だけで悩むのではなく、気軽に相談できる環境が整っているのも大変魅力的だと思っています。

裕太さん：子どもたちにはさまざまな選択肢を提供したいと考えているのですが、亀岡は『トカイナカ』と呼ばれるように、田舎と都会の良いところを両方経験できるので、非常に魅力的だと感じています。

利江子さん：選択肢という点では、教育環境も多様です。小さい学校もあれば大きな学校もあり、小学校には亀岡市全域から通学できる『小規模特認校制度』もあります。子どもたちの個性に合わせて幅広い教育環境を提供していきたいとお考えの子育て世代の方々には非常におすすめです。

### －自治体による子育て支援についてはいかがですか？

利江子さん：自治体の子育て支援にはとても助かっています。特に、保育園でのおむつの無料は経済的な負担も軽くなり、安心して育児に取り組むことができます。

### －最後に移住を考えている方へのメッセージをお願いします。

利江子さん：自然の中でのびのびと子育てをしたい、子どもたちに幅広い選択肢を提供したいと考えている方には、亀岡は非常に魅力的な環境です。そして、亀岡市の職員の皆さまはとても熱心かつ親身にサポートして下さるので、少しでも興味を持たれた方は、まずは亀岡市役所さんに連絡をしてみてください。理想の移住を叶えるためのヒントをたくさん得ることができると思います。

裕太さん：子どもたちにさまざまな経験をさせたいと考えている方にとって、亀岡は非常に子育てしやすい地域です。都市部とは異なり、町内での草刈りや地域活動などの役割がありますが、これが地域とのつながりを深め、子どもたちも地域全体で見守ってもらえる安心感を得られます。また、親世代としても世代を超えた新たな人間関係を築くことができ、地域に溶け込んで充実した生活が送れると思います。移住するうえで「地域とのつながり」がとても重要になってくるので、検討される際には地域の活動やコミュニティとの関わりについても事前に調べるようにしてください。



# 2



## 子育てに安心感を、心と暮らしにゆとりを ～南丹市の自然豊かなライフスタイル～

大学入学を契機に南丹市へ移住し、現在もその地で暮らす貴志さん・葉音さん。プロの木工職人としての仕事に加え、公務員として地域貢献を続ける中で、3人のお子さんとのように自然豊かな環境で成長を支え合っているのでしょうか。移住後の生活を通して感じる地域とのつながりや、家族生活の充実ぶりについてお話を伺いました。

-profile- 古川貴志さん・葉音さん

夫の貴志さんは木工職人として創作活動に取り組み、妻の葉音さんは公務員として地域に貢献。3人のお子さんを育てながら、自然豊かな環境でゆったりとした生活を満喫中。

－南丹市に移住されたきっかけは？

貴志さん：私たちは南丹市にある大学の同級生で、卒業後、私が京北町、妻が南丹市で働くことになりました。そのため、卒業後もそのまま南丹市に暮らしています。

－お二人はもともと東京の八王子や大阪の枚方といった都市部に近い人口の多い街で暮らしていたということですが、園部での生活環境にギャップを感じることはありませんでしたか？

貴志さん：最初は、交通手段の違いや街灯の少なさによる地域の暗さに驚きました。

葉音さん：東京とお店の数が全然違ったので、どこで買い物をしたらいいのか迷いました。

—最初にそのようなギャップを感じた中で、現在、逆に魅力だと感じる点はどのようなところですか？

貴志さん：私自身がものづくりを行っている観点からですが、都市部に比べて広い住環境で暮らせるため、材料を保管するためのスペースを確保しやすい点が魅力的です。また、隣の家と言っても実際には距離感があるため、機械を使った作業をしても騒音トラブルになりにくいのです。これは、ものづくりやDIYに関心のある方にとって大きな魅力ではないかと思います。

もう1点、先日の台風（令和6年台風10号）では、意外にも風が一切こなかったですね。これは近所の方から「ここは風に強い土地だ」と聞いて実感したのですが、昔からの集落は、先人たちが自然災害の経験をもとにリスクが低い場所を選んで形成されてきたと思います。絶対に大丈夫という保障はありませんが、個人的には乱開発された新興住宅地都市部に比べて信頼できるのも魅力だと感じています。

葉音さん：自分らしくいられるという点が魅力です。東京で暮らしていたときは、見知らぬ人との距離が近く、他人に迷惑をかけないようにというマインドが働いて縮こまって過ごしていましたが、南丹市では物理的な距離にも余裕があり、自分らしく生活できています。

また、生活のリズムがゆっくりであるという点もマイペースな私にはとても合っています。東京では急いで駅に向かい、10分間に2本～3本の電車を逃さないようにするのが当たり前でしたが、こちらでは電車の本数が30分から1時間に1本と少ないことで、逆に急がず済み、電車を待つ間に考えごとをすることができたり、時間に追われることはありません。

—逆に不便に感じていることや困ったことなどはありますか？

貴志さん：現状、私たちが暮らしている園部については特に困ることはありませんが、強いて挙げるとすれば濃い霧ですね。

葉音さん：冬に洗濯物を干しても乾かないというのが衝撃的でした。関東はからっ風なので。移住を検討される際は、ぜひ季節ごとの違いも含めて実際に足を運んでみることをおすすめします。

—子育てするうえでの環境はいかがですか？

貴志さん：自然と触れ合う機会が豊富であるという点は魅力だと思います。近くの川で川遊びをしたり、メダカや川魚が泳いでいるのを見たり、蛍を楽しんだりすることができるのは大阪の枚方で育った私自身も子どもの頃には体験できなかったことですので、一緒に楽しめて嬉しいです。

一方で枚方で育ってきた私にとって、自然の中でどのように遊ばせたら良いのか分からないため、地域の方々に積極的にアドバイスを聞く必要があります。また、枚方と比べると公園や遊具の充実度がどうしても低く、その点は少し不便だとも感じています。



葉音さん：子育てすこやかセンターの存在は非常に頼りになりました。未就学児を連れて親子で遊びに行ける場所で、私は毎日通っていました。当時、そこには現役を引退された保育士さんが常駐しており、子育てで困っていることや相談があるときには、その先生に気軽に相談できたので、とても助かりました。お母さんが、子どもが小さい頃に孤立せずに済む居場所があるというのは、非常に大きな支えだと思います。

逆に子どもが中学生や高校生になったとき、より遠方の学校に通うことになり、街灯が少ない中での夜間の帰宅について「大丈夫だろうか」と漠然とした不安を感じています。子どものライフステージに応じた環境や選択肢については、移住前に慎重に検討する必要があると思います。

**－最後に移住を検討されている方にアドバイスをお願いします。**

貴志さん：移住する際に地域との関わりを持たないことはトラブルの原因になることがあるので、「地域との関わり」という点について十分に検討していただければと思います。

また、検討においては、実際にその地域に住んでいる移住者の話を聞くことが最も効果的だと思います。

南丹市への移住を検討される際には、ぜひ森の京都DMOを通じて私に相談していただければと思います。地域に暮らす方にとっては当たり前のことでも、移住者にとってはそうでないことがたくさんありますので、地域の実際の生活状況やよくある問題、習慣などの生の情報をお伝えできればと思います。

**－貴志さんにもご協力いただけるとのことで大変心強く感じています。参考までに移住後に地域の方々との関係を深めていくうえで大切にされていることについても教えていただけますでしょうか。**

貴志さん：分からないことや困ったことについては、気後れせずに自ら積極的に質問し、教えてもらうことがとても重要です。地域の方々の立場で考えると、移住者がどのようなことに困っているのかを理解するのは難しいですし、田舎では年配の方が多く暮らしているため、若い世代の感覚やコミュニケーション方法が理解されにくい場合があります。そのため、移住者側から積極的にコミュニケーションを図り、地域の慣習やルールを理解し、信頼関係を築いていくことが非常に大切です。



### # 3



## 農と自然の中で、子どもと向き合う時間を大切に ～南丹市での子どもの生きる力を育む暮らし～

自然豊かな南丹市での暮らしを選んだ藤村さん・荒瀬さん夫妻。農と自然が日常に溶け込んだ環境の中で子どもたちとの時間を大切に、成長を支えています。移住を決断した理由や、実際に暮らしてみて感じた子育て環境の魅力について、たっぷりとお話を伺いました。

-profile- 藤村伸二さん・荒瀬千秋さん

京都市から南丹市に移住した藤村伸二さん・荒瀬千秋さんご夫妻。半農半Xのライフスタイルを実現するために家と畑が一体となった環境でお子さんを育てながら、地域とのつながりを大切にしながら暮らしを楽しむ。自然豊かな環境で「生きる力」を育む日々を過ごしている。

### ～南丹市に移住されたきっかけは？

伸二さん：移住のきっかけは、半農半Xの暮らしを実現するためでした。夫婦共に、もともと小さな農生活に興味があり、周囲にもオーガニックや持続可能な生活に関心を持つ友人が多かったです。

「自分たちの食べるものはできる限り自分で作る」という価値観に共感し、それを実現するために移住を決意しました。以前住んでいた京都市でも、畑を借りて野菜作りに取り組んでいました。

千秋さん：直接のきっかけは、借りていた畑までの坂を上がるのが面倒、家と畑が平らならいいのに、という夫の一言でした。



#### －南丹市を選んだ理由を教えてくださいか？

伸二さん：南丹市定住促進サポートセンターの担当者が、家と畑が一体になった理想的な物件を紹介してくださったことが、決定的でした。田舎でも自宅と畑が離れていることが多い中、家と畑がつながった物件に出会えたことは非常に嬉しかったです。

また、サポートセンターの担当者さんが、親身になってアドバイスをくださっただけでなく、私たちが蜂を飼いたいということで、集落の方々にその可否も確認してくださって、移居前から安心して準備を進めることができました。

千秋さん：子どもの学区のことで、この物件にすべきか迷っていた時、「でも育児はあつという間ですよ、そのあとの時間の方が長いんですよ」と、担当者さんが移住・育児両方の先達としておっしゃってくださったおかげで、現在の物件に決められました。

#### －実際に暮らしてみてもの印象はいかがですか？

千秋さん：日常生活に関しては、スーパーや病院など生活に必要な施設へは車で少し時間をかけて向かう覚悟をし、移住のために免許を取得していたため、特に困ることはないですね。オンラインショッピングの頻度は増えました。

伸二さん：畑の柵や東屋など、自分でものづくりに取り組むことができる点がとても楽しく、充実感を感じています。通勤も自転車から電車に変わり、通勤時間が長くなりましたが、電車の乗り換えがうまくいけば片道1時間15分ほどで通勤できるため、仕事を変えることなく田舎暮らしができる環境に満足しています。

#### －移住をされてみて不便に感じたことや困ったことなどはありましたか？

千秋さん：（うちは敷地の外周囲が大きいので）草刈りが思った以上に大変です。特に、畑の周囲や水路沿いの場所では、水の流れが滞らないよう、しっかり草刈りを行わなければいけません。近年は夏の期間が長くなっていることで、草刈りの回数も増えています。移住を検討している方には、具体的な草刈りの負担、その物件に必要な草刈りの範囲を事前に確認しておくことをおすすめします。

また、鹿による食害も大きな問題で、畑に植えた野菜のほとんどを食べられてしまいました。今後は畑に柵を設置するとともに、鹿に食べられにくい植物を組み合わせる栽培したいと考えています。



**－子育てするうえでの環境はいかがですか？**

千秋さん：子どもとの時間が増えたことが大きなメリットです。以前は送迎時間が短く、通園途中にあまり会話できませんでした。車での送り迎えになったことで、子どもとじっくり話す時間ができ、ちょっとした成長や変化にも気づけるようになりました。また、園庭も以前の数倍あり、成長期にしっかりと運動させることができ、将来の成長にも良い影響を与えられるのではと思っています。

一方でデメリットとして感じることは、近所に年齢の近い子どもが少なく、幼稚園の外では子ども同士で遊ぶ機会が限られている点です。ただ、南丹市は京都市内へのアクセスが良いため、定期的に以前住んでいた町に出かけたり、京都市の友人家族を招いてバーベキューパーティーを開いたりして、幼稚園以外でも娘が同年代の子どもたちと楽しく遊べる機会を作っています。



**－自治体による子育て支援についてはいかがですか？**

千秋さん：医療費負担軽減制度は本当に助かっています。1か月1医療機関につき200円の負担で医療が受けられるので、子どもが体調を崩したときにも安心して受診できます。経済的な負担が軽くなり、子育て中の家庭にはとてもありがたい制度だと感じています。

**－最後に移住を検討されている方にアドバイスををお願いします。**

千秋さん：移住を検討されている方には、まず実際に地域に足を運び、地元の人と話をして暮らしの実際を体感してほしいと思います。田舎に住むと、のんびり過ごせるというイメージを持たれる方が多いですが、実際にはかなり忙しくなります。幼稚園や小学校の送迎だけでなく、習い事の送迎にも時間がかかります。特に草刈りについては、自宅だけでなく地域の行事にも参加する必要があるため、田舎暮らしに求められる体力についてもしっかり考えておくことが大切です。

伸二さん：最初から「こういう田舎暮らしをしたい」と固めすぎるのはおすすめしません。そうすると、その理想に合う物件を探すことになりがちです。しかし、物件を見てみると、思いがけないアイデアが浮かぶこともあります。

「ここだったらこんな暮らしができそう」といった逆の発想を持つことも大切です。そのためには、地域や行政が主催する地域紹介イベントなどに積極的に参加し、実際に田舎暮らしのイメージが湧きやすい状況を作っていくといいのではないのでしょうか。

また、自治体の空き家バンクを活用するとともに不動産屋も活用することをおすすめします。不動産屋には空き家バンクにない物件もあるし、行政とは違った目線での田舎のメリット・デメリットを教えてくれることもあります。両方の情報をうまく活用することで、幅広い選択肢のもと幅広い選択肢のもと移住の準備を進めてください。



# 4



## 地域との絆と自然の恵みで育む、子どもの自律心 ～亀岡市の手厚い子育て環境～

2022年に京都市から亀岡市に移住された井上さんと岡田さんにお話を伺いました。亀岡市へ移住した理由や、自然豊かな環境と地域の温かな支援がどのように子どもたちの自律心や成長をサポートしているのか、また、亀岡市ならではの育て環境についてお聞きしました。地域とのつながりが子どもたちの成長を支える中で、どのように家族としての暮らしが充実しているのか、実際の生活を通して感じた魅力をお伝えします。

-profile- 井上貴美子さん・岡田康孝さん

香りや装身具を中心に制作するブランドSOÉLUの井上貴美子さんとコントラバス奏者の岡田康孝さん。2022年に亀岡市に移住し、4人の子どもを子育て中。自然豊かな環境と地域とのつながりを活かした新しいライフスタイルを満喫しています。2024年1月には「レストラン 穀雨」をオープン。

— 亀岡市に移住されたきっかけは？

貴美子さん：移住したきっかけは、主に2つの理由からです。まず一つ目は、子どもたちが成長するにつれて、今までの自宅が手狭に感じるようになったことです。ゆとりある生活や子育て

てをしていきたいという想いがあり、広い空間で家族全員が快適に過ごせる場所を探していました。

そして二つ目は、子どもたちに自然豊かな環境、京都市内より少人数のクラスの中で、自分のペースで成長できると思い、移住を決意しました。

### —なぜ亀岡市を選ばれたのですか？

貴美子さん：探し求めていた物件によく巡り合えたからです。もともと京都市内から車や電車で1時間以内のエリアを想定し、古民家を探していました。そんな中、たまたま見つけた空き物件がとても状態がよく、主人の友人が近くに住んでいたこともありこの地を選びました。さらに自然豊かな環境で子育て出来るという点もとても魅力でした。



### —実際に暮らしてみてもの印象はいかがですか？

貴美子さん：良かった点は、やはり自然環境ですね。私たちは古民家をなるべく元の形に戻したいという思いがありました。そのため、現代の住宅より寒く、その点は大変でした。我が家は五右衛門風呂と暖炉のある生活をしているので、薪の確保も最初は悩みました。でも、それも私たちが選んだ生活スタイルだと思っていますし、寒さの中で温まる暖炉の火が本当に心地

よく感じるんです。畑も四季折々で色が変わり、空気も美味しく、毎日癒されています。

そして、近所の方々とのつながりもとても温かいです。薪を確保するために山で木を切ってくれる方もいれば、近所の方々が「必要だったら声をかけてね」と気軽に話しかけてくれるなど、ここならではの心地よさを感じています。これまでの都市生活とはまた違った、地域のつながりの大切さを実感しています。

康孝さん：アクセス面でも非常に満足しています。亀岡は大阪、神戸、京都、さらには海へも1時間ほどで行くことができます。私たちはサーフィンをするのですが、海へのアクセスが便利なのはとても嬉しいです。



ー移住をされてみて不便に感じたことや困ったことなどはありましたか？

貴美子さん：私たちが自ら選んだ生活スタイルなので、大きな不便は感じていませんが、駅まで遠いこと、バスの本数が少ないことは少し不便を感じる時はあります。車に乗れない母はバスの時間を完全に把握しています笑

康孝さん：子どもたちは自転車で冒険のように毎日遊びに行きます。地域活動がしっかりしているおかげで、顔が見える関係が生まれ、子どもたちがどこに行っても見守ってもらえる安心感があります。例えば、地域外からの車が停まっていると、みんなで「あれ、誰だろう？」と気にかけてくれるんです。そうした小さな気配りが日々の安心感やつながりを感じさせてくれます。

ー移住を検討されている方々の中には、地域の方々との関わりについて不安に感じている方も多いかと思いますが、そうした中で意識されていることや工夫されていることがあれば教えてくださいませんか？

康孝さん：「郷に入れば郷に従え」という言葉があるように、この地域で長年活動されてきた方々の考えや文化を尊重することが大切だと思います。地域に住む中で一番大切なのは、まず挨拶をしっかりとすること。

そして、もし間違ったことをしてしまったら、きちんと謝ることが重要です。また、感謝の気持ちを伝えることも大事ですね。「ありがとう」と言えることは、地域とのつながりを深めるための基本だと感じています。



ー子育てするうえでの環境はいかがですか？

貴美子さん：移住後、子どもたちはとてもスムーズに新しい環境に馴染んでくれました。2学期からの転校だったのですが、夏休み中に学校を見学させていただき、各担任の先生方が教室を案内してくださり、親身に話してくれました。また、個別対応がしっかり行われ、家庭との距離も近く、相談しやすい環境が整っている点も助かっています。

康孝さん：地域の方々が有志で公園や遊具を作ってくださったり、子どもたちのために積極的に関わってくれることに感謝しています。こうした自然豊かな環境で、子どもたちが自由な発想で遊ぶ姿を見れて、私たちも楽しんでます。



—最後に移住を考えている方へのメッセージをお願いします。

貴美子さん：私たちは、子どもたちに自律した人間になってほしいと思っています。自分の軸を持ち、やりたいことを実現する力を養ってほしい。そのためには、環境の中で自分で考え、行動することが重要だと考えています。亀岡市のような自然豊かな場所での生活は、子どもたちに自分で工夫して動く力を育むのに適していると思います。

また、地域の温かい人々に支えられ、困ったときにはすぐに助け合える環境が整っているのも魅力です。自然のサイクルをより強く感じれる環境で、自分で考え、行動する力を育む子育てをしたい方には、亀岡市は本当におすすめです。ここでは子どもたちが自主性を持ち、自分のペースで成長できる環境が整っており、地域とのつながりの中で助け合いや自律を学ぶことができます。



# 5



## 「地域で見守る」京丹波町竹野地区の子育て ～地域全体でサポートする子育て環境～

2023年に京都市から京丹波町へ移住された川中一樹さん・愛映さんご夫妻にお話を伺いました。移住誘致の取り組みに力を入れている竹野地区の環境が、どのように移住を選択する後押しをしたのか、子育てをする環境にどのような変化を感じたのかを紹介します。

-profile- 川中一樹さん・愛映さん

2023年に京都市から京丹波町へ移住。リモートでの仕事を中心にしながら、2人の子どもを子育て中。京丹波町竹野地区で仕事や子育てだけでなく、地域行事などにも積極的に参加し、地域とのつながりを大切にしている。



### —京丹波町へ移住されたきっかけは？

一樹さん: 私たちには小学2年生とこども園に通っている年長の子どもがいます。数年前、まだ長女が赤ん坊の頃に仕事で訪れて「素敵な小学校があり、自然も豊かですごくいいところだ」と感じたことが最初のきっかけです。

愛映さん：当時は、京都市内にある私の実家の近くに住んでいたのですが、子どもが生まれたことで「子どもをどう育てていくか」が急に夫婦の関心事になりました。

一樹さん：京都府各地を見て回る中で、竹野小学校がとても楽しそうで、子どもたちが生き生きとしている印象が強く残りました。それが移住を考えるきっかけとなり、家族での目標として具体的に進めていくことになりました。



### 一京丹波町へ移住された理由は？

一樹さん：移住を決めた理由は、自然豊かなのはもちろんですが、面白い人が多かったことと距離感がちょうど良かったことが大きいです。仕事で京都市内や大阪、時には東京へ出ることが多いので、アクセスよく経済的にもできるだけ負担が少ない点は重要でした。

移住を検討している時に、「竹野地域活性化委員会」の役員さんに移住イベントや小学校の竹野運動会（地域の方も参加する区民運動会のようなもの）に誘ってもらったり、空き家を紹介してもらったりしました。竹野地区に暮らす方々や学校の先生方は面白い人たち、地域想いの方がたくさんいて、関わった皆さん一人ひとりが印象的で、シンプルに人の魅力を感じました。最終的には、仕事のアクセスが良く、実家

からも程よい距離で地域の人々が温かく迎えてくれる環境が整っていたのが決め手になりましたね。

### 一移居前と比べて生活環境はいかがですか？

一樹さん：家が広くなり、前に住んでいた家と比べて静かで、自由に過ごせるようになりました。庭や畑もあり、生活水準が上がったと感じています。人間関係も豊かになり、犬を飼えるスペースもできました。妻はフルリモートで仕事をしているので、生活環境に大きな変化はありませんが、子どもが外で自由に遊べるようになり、近所の人々も見守ってくれるので、安心感があります。



### 一移居前に調べておくべきポイントは？

一樹さん：地域の人々とのつながりを大切にすることが重要です。私の場合、竹野地域活性化委員会の役員さんや会長さんとのつながりがあったおかげで、地域の人々とスムーズに接点を持つことができました。

愛映さん：家族全員の意見を尊重することも大切だと思います。移住先を決めるにあたって、京都府内以外にもいろんな所を見に行きましたが、それぞれの場所に行く際には、子どもたちに「気に入ったか、どう感じたか、どう思う

か」を聞きながら進めました。子どもの直感を大切にすることで、移住先に対する理解が深まると思います。

### ー竹野地区の子育て環境は？

一樹さん: 全国各地移住先を探して回っていた時は、実際に小学校へ訪れて話を聞くこともしていました。竹野小学校にも訪問して先生達の話聞いて、授業の様子も見学させてもらいました。

良いなと思った点がたくさんあったのですが、特に先生と生徒の距離が近く、一人一人の生徒のことをよく見てもらっていると感じました。少人数校で生徒が少ない分、先生達も余裕を持って接してくださっていて、生徒たち一人ひとりを尊重してもらっている、多様性を受け入れてもらえる学校だと思ったので、竹野を選んだポイントの一つになりました。

### ー竹野小学校の特徴を他にも教えてもらえますか？

一樹さん: 地域の特性を活かした教育を行っていて、地域の自然や文化を学ぶ機会が多く、地元の人々との交流を大切にしているところですね。竹野活性化委員会の皆さんも、子育て世代の方に来てほしい思いが強く、移住相談に来られた際には、平日に学校を案内していただけます。そこで実際に生徒が授業を受けている様子や、先生達から話を聞くことができます。

愛映さん: 授業や行事には地域の皆さんも携わっておられる機会も多いので、子どもたちも色々な方と交流できます。交流している様子を見ると、竹野小学校は竹野の皆さんにとっても本当に大切な場所だと伝わってきますね。

交流を通じて顔と名前を覚えてもらえるので、子どもたちが外で遊んでいても地域の皆さんが

見守ってくれている安心感は、都会では絶対に感じる事ができないですね。

### ー逆に移住されてみて不便に感じたことや困ったことはありましたか？

一樹さん: そうですね、皆さんが困ったこととして挙げるのは「仕事」だと思います。他の家族の話を見ると、やはり仕事の面で悩むことが多いなと感じます。

他には、車がなかったときはバス通勤をしていましたが、バスの本数が少なく、10時や11時の便がなくて、12時の便を待つこともありました。そのため、めちゃめちゃ自転車で疾走していました。

また、寒さも困った点の一つです。寒暖差も激しいですし、日によっては雪が降るので寒さが苦手だと困りますね。

### ー最後に移住を考えている方へのメッセージをお願いします。

一樹さん: 京丹波町内で仕事を探してほしいなと思います。私も自身のスキルを活かして京丹波町内向けに事業を始める準備をしています。この地域の強みは、京都市内や大阪でも働ける環境があることです。私自身は仕事に関する不安はあまり感じていませんが、近い方がもちろんいいと思います。実際に現場を見てほしいですね。

愛映さん: 空気感や自分に合うかどうか、実際に訪れないと分からないと思います。私たちが訪れたときも、地域性がすごくわかりました。日常生活で立ち寄る場所、例えばスーパーや病院などを実際に見て回ることで、いろんなことが見えてきます。そういった体験を通じて判断するのが良いと思います。

一樹さん: 自分の子どもの同級生が増えると嬉しいので、ぜひ竹野へ来てほしいですね。私たちも竹野での子育てを経て、アドバイスできることがあると思うので、協力していけると嬉しいです。



# 6



## 伝統芸能が盛んな京丹波町和知地区での子育て ～伝統芸能を通じて育む子どもの未来～

今回は2021年に三重県鈴鹿市から京丹波町和知地区へ移住された的場凛さんにお話を伺いました。和知太鼓、和知人形浄瑠璃など伝統芸能が盛んな和知地区。太鼓奏者でもある凛さんが、伝統芸能を通じた子育てへの思いを紹介します。

-profile- 的場凛さん

2021年に三重県鈴鹿市から京丹波町へ移住。太鼓奏者として各地で公演や太鼓教室を開催。地元鈴鹿市では観光大使を務める他、森の京都DMO文化観光サポーターとして、京丹波町の伝統芸能を継承していく活動も行なっている。



## —京丹波町へ移住されたきっかけは？

凜さん：京丹波町への移住は主人との結婚がきっかけでした。最初は、半分京丹波町、半分三重県鈴鹿市の生活をしていましたが、子供が生まれた際に、初めて住所を移し、本格的に京丹波町での生活を始めました。最初は田舎暮らしに不安もありましたが、実際に住んでみると、思った以上に住みやすく、むしろ楽しいと感じました。

移住を考える多くの方は、田舎暮らしに対する憧れや目的を持っていると思いますが、私の場合は正直、田舎での生活に対して少し腰が引けていました。しかし、住んでみると、京丹波町の景色がとても心地よく、自然の美しさや温かさが大きな魅力でした。特に、私の故郷では見られなくなった景色がここにあり、それが移住をして良かったと思えた一因です。

また、人と人との距離感もとても良いと感じました。鈴鹿では近所付き合いが徐々に薄れてきていたのですが、こちらではコミュニケーションが温かく、バスの運転手さんが子供を降ろす際に必ず立ち止まってくれるなど、細かな気配りが嬉しかったです。こういった温かい人との繋がりが、京丹波町での生活を楽しいものにしていて実感しています。

## —京丹波町と三重県鈴鹿市の2拠点生活についてお聞かせください。

凜さん：私は演奏者という特殊な職業についており、今でも地元の鈴鹿市で仕事をこなしています。仕事柄、全国を移動することが多いの

で、2拠点での生活に特に困ることはありませんでした。子どもは0歳の頃から、京丹波町と鈴鹿市を行き来しています。子連れでの大変さは感じましたが、それも後に良い思い出になるだろうと思っています。

2拠点生活の大きなポイントは、京丹波で得たものを鈴鹿で活かせることです。例えば、京丹波の農産物を鈴鹿で販売し、私の公演の際に京丹波の元の特産物を提供することなど、地元とのつながりを深めながら仕事を進められたことが大きなメリットでした。移住を決めた後は「大変だ」と感じるよりも、どのように楽しむかを考えることに力を注ぎました。



## —移住前に調べておくべきポイントは？

凜さん：移住前に調べておけば良かった点としては、まず雪に関することです。私の故郷では雪がほとんど降らない地域だったので、京丹波の冬の雪には少し驚きました。しかし、これも徐々に慣れ、楽しむことができました。

私の場合、結婚をしたタイミングがコロナ禍で、主人の所属する部署がコロナ対応に追われていたので、環境が変わった中で一人の時間が多くなり不安を感じました。地域におけるつながりが大事だということも、移住前に知ってお

くべきでした。特に横のつながりが作りにくかった時期だったので、誰に何を聞くべきかがわからず、最初は不安でした。今はネットで情報が手に入る環境ですが、各地域の特性やどんな方が活動されているかなどは、現地に訪れないとわからないことが多いです。個人の思いや目的を踏まえて、どの地域でどんな人たちと関わっていけるかは調べておくと、住んでから活動する幅が広がっていくと思います。

### ー子育て環境はいかがですか？

凛さん：子供が0歳の頃からこども園でお世話になり、預けられる環境が整っていたからこそ、仕事を続けられたという点は本当に助かっています。京丹波町の保育園はとてもアットホームな環境だと感じていて、現在、息子が通っている保育園は町内でも最も人数が少ない保育園ですが、その分、先生方が非常に温かく、子ども一人ひとりをしっかり見守ってくれます。また、親同士も気軽に声をかけあう雰囲気があり、まるでみんなで子どもを育てているような感覚です。

京丹波の子どもたちは、いろいろなことに触れる機会が豊富です。ネットを使えば情報は簡単に得られますが、やはり体験に勝るものはないと思っています。私は楽器を演奏する仕事をしているので、子どもにも一流の音楽を聴かせたいと思い、東京からアーティストを招いて演奏会を開いたり、京丹波の保育園で演奏をしたりしました。こうした取り組みを通じて、京丹波で子どもたちに様々な経験をさせられることに喜びを感じています。

さらに、京丹波では自分の子どもだけでなく、地域全体で子どもを育てようという空気が自然にあります。例えば、地元のイベントに篠笛奏者やトランペット奏者、ピアニスト、ヴァイオリニストなどが出演し、第一線で活躍しているアーティストが京丹波で演奏してくれることもあります。こうした経験は、京丹波の子どもたちにとって素晴らしい学びの場となっており、大人が協力して地域の魅力を上げていくことが重要だと感じています。将来、子どもたちが自分の故郷に誇りを持ってスタートラインに立てるような環境を作っていきたいと思っています。

### ー京丹波町の子育ての雰囲気は？

京丹波町の雰囲気は、街中の子どもたちとは少し違うと感じています。町の方に比べて、京丹波は本当にアットホームで、のびのびとした環境です。地域性もあるかもしれませんが、子どもや先生たちも負担が少なく、穏やかに過ごしている印象です。町から少し離れたエリアは、どこかポツンとした感じがあり、そこに住んでいる人々も静かな暮らしをしていると思いますが、そうした中でもやはり「のびのび」という特徴は共通していると感じています。



ー移住して不便に感じたことはありますか？

凜さん：移住して感じた不便な点は、品物の価格です。京丹波町には競合となるお店が少ないため、品物が少し高めを感じる場合があります。都市部であれば、複数の店が競い合っただけで価格が下がることもありますが、ここではそうした競争が少ないため、価格が上がりがちです。

京丹波町の人々は非常にクリエイティブで、何か足りないと感じたら自分で作り出してしまう力を持っています。お店がなければケーキを作ったり、自然のものを使って味噌を作ったりと、手作りのものが多いです。私はお菓子を作ったことがなかったのですが、ここに来てからその影響を受けて、免許を取ってお菓子を作り始めました。子どもができたことも影響していますが、安心して食べられるものを自分で作りたいという思いからです。

大きな街ではケーキ屋さんもあるし、スーパーで買えばすぐに揃うものが、ここでは自分で作ることで新しい発見があり、逆にその不便さが楽しみに変わっています。こうした経験を通じて、地元の人々の知恵や工夫に触れることができ、すごく得るものが多かったと思っています。

ー移住を考えている方へのメッセージをお願いします。

京丹波町は、周囲の人々が温かく、子どもの成長を見守ってくれる環境があります。物理的・金銭的な面で、都市部と比較してどうかは分かりませんが、私自身は京丹波へ来て良かったなと感じています。困った時には誰かが助けてくれるような地域の温かさが感じられます。

また、インターネットを通じて知る世界だけでなく、実際に五感を使って体験することができるのが京丹波の魅力だと思います。日々の生活の中で、自然の美しさや、地域のつながりを肌で感じながら学ぶことができる、京丹波ことは大人だけでなく、子どもにとっても特別な体験になると思います。

